

## 岩手県野田村の支援・交流活動報告（2012年7月21日）

7月21日（土）は、学習支援の「定期便」がスタートして3回目の活動日になります。この時期にしてはやや肌寒さを感じる中、7時20分頃、弘前大学正門前をバスは出発しました。今回は、学習支援の学生と茶話会に参加する市民の皆さんに加え、「キッズスポーツひろば」を開催するスポネット弘前の皆さんと「あんよ・せらびー」の皆さんも参加して下さり、42名がバスに乗り込みます。自家用車で現地集合した5名を加えると47名という、久々に大人数でのボランティア活動になりました。参加者の内訳は、学生が7名、市民が13名、スポネット弘前が17名（参加者7名、スタッフ10名、スタッフのうち8名は高校生）、「あんよ・せらびー」の参加者が9名、教員が1名でした。



道の駅「おりつめ」で恒例の集合写真

道の駅「おりつめ」で恒例の写真撮影を行った辺りで雨が降り出し、途中で雨脚も強くなっていきました。今日は室内での活動が中心とは言え、若干の不安を感じながらバスに揺られていましたが、野田村に到着した時には雨は降っておらず、天候にも恵まれました。10時25分頃、野田村役場前に無事到着。チーム北リアス現地スタッフの塩田朋陽君と野田村社会福祉協議会の小谷地さんが出迎えをしてくれました。



被害状況について説明を受ける参加者



学習支援(?)の一こま

午前は、市民の皆さんを中心にした茶話会&「あんよ・せらびー」と、学生を中心にした子どもたちの学習支援が、野田村総合センターで行われました。その間、スポネット弘前の参加者と市民参加の一部の方は、塩田君に案内してもらい、村内の被害の様子・現状を見学させてもらいました。まずは、野田村の役場前から海の近くまで歩き、津波の被害がどのようなものであったかを説明してもらい、その後バスで野田中学校の仮設住宅の周囲を見ながら、仮設住宅での生活の様子なども解説してもらったようです。津波の被害状況や仮設住宅での生活の様子を目の当たりにした見学者からは、「現状を見ることができて勉強になった。」「初めて被災地を見て、テレビで見るより荒らされたんだと思った。」「復興の様子が見られたのでよかった。」という声が聞かれました。

昼食は、野田村総合センター1階の和室で、全員でいただきました。今回も「かまどのつきや」さんで作っていただいたお弁当です。帰りのバスの中でも「お弁当がおいしかった」という感想が聞かれました。毎回心尽くしのお弁当を用意していただいて、感謝しております。



和室での食事風景



本日のお弁当

午後は、午前引き続き学習支援と茶話会が行われ、加えて野田村の子どもたちと弘前市の子どもの「キッズスポーツひろば」が開催されました。

学習支援の子どもたちの中には「キッズスポーツひろば」に参加した子もいたのですが、残って遊びたいという子もいたので、学生の一部に残って相手をしてもらいました。一緒にウノをやったり、サッカーをしたりと、楽しそうに遊んでいました。

茶話会&あんよ・せらびーは、残念ながら来て下さった方はそれ程多くはなかったのですが、参加して下さった方はゆっくりマッサージを受けたり、お話をされたりして、満足した様子で帰っていかれました。参加者からは「心と心の触れ合いができた。」「被災者の方と話をしてみて、まだまだ精神面では立ち直れていないように感じた。メンタルな部分でのケアが必要ではないか。」という声が聞かれました。

「キッズスポーツひろば」も、予想していたより野田の子どもたちの参加は少なかったようです。それでも、野田の子どもたちと弘前の子どもの間に、午前中学習支援に参加していた学生の大半も加わって、みんなとても楽しそうに汗を流していました。参加したボランティアからは、「子どもが自由すぎて元気すぎた。エネルギーを奪われた。」「久しぶり

にはしゃいで楽しめた。」「野田の子どもたちの運動能力の高さに感心した。またできるだけ遊びに来てみたい。」という感想が聞かれました。



茶話会&「あんよ・せらびー」の様子



「キッズスポーツひろば」の一コマ

活動を終えて、15時15分頃には野田村を後にし、18時30分過ぎに無事弘前に戻りました。今回の活動では、学生事務局スタッフが非常に頑張ってくれました。バスの中の進行は出張君が1人で担い、田上君と藤田さんも茶話会の準備を率先して進めてくれたので、教員事務局は出番がなかったくらいです。また、今回、昨年度の学生事務局の卒業生である斉藤君と福士君も参加してくれ、事務局の仕事を補佐してくれました。学生事務局スタッフだった2人が「市民」として参加してくれたのも嬉しい限りです。

今回の活動を通じて、印象に残った「笑顔」が2つあります。「あんよ・せらびー」を終えて帰ろうとされた方とすれ違った際、「癒されました。ありがとうございました。」と言われた時の笑顔と、「キッズスポーツひろば」になかなか入って行けずずっと体育館の隅で見ていた小さな子が、スポネット弘前の方から記念品をもらった時、満面の笑みを浮かべて一生懸命走って行って記念撮影に加わった時の笑顔です。確かに、今回は、「キッズスポーツひろば」も「あんよ・せらびー」も、あまり多くの方に参加してもらえませんでした。参加者からも、「もう少し来てもらえればよかった。」「事前にもっとPRをしてもらい、もっと集まってもらえるような工夫が必要ではないか。」という声も聞かれました。多くの方に集まってもらうことも、もちろん大切なことではあります。しかし、集まってくださった方が少なくても、その方たちが満足して笑顔を見せてくれるような場を何度も何度も作っていくことも重要ではないかと感じました。これからも、参加して下さる方が少なくても笑顔で楽しんでいただける場を作っていければいいなと感じたボランティア活動でした。

(担当 平野 潔)